

平成23年度8020公募研究報告書抄録

研究課題：8020運動開始20年！～近年の8020達成者と非達成者の違い～

研究者名：別所和久¹⁾ 浅井啓太¹⁾ 山崎亨¹⁾ 家森正志¹⁾ 高橋克¹⁾ 中山健夫²⁾

所属：¹⁾京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野

²⁾京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野

【目的】超高齢社会となった現在、8020達成者数は当然増加すると考えられるが、8020達成者率を増加させることがより重要な課題となる。8020達成者率を増加させるためには、歯を失う主原因である歯周病やう蝕の予防が重要と考えられるが、それらに加えて生活習慣や食生活の改善、定期的な歯科受診による口腔管理の推進も併せて必要であると考えられる。しかしながら、これまで行われてきた多くの研究は、8020達成者のみを対象に研究が行われており、8020予測非達成者がいかなる生活習慣や食習慣を有しているか、口腔管理がどのように行われているかなどについて、詳細な検討がなされていない。本研究の目的は、8020を達成するために、各年代で共通した要因と年代別で異なる要因に関して調査し検討することである。【方法】本研究では、滋賀県長浜市民を対象とした「ながはま0次予防コホート事業」参加者のうち、矯正や外傷による抜歯の既往がある参加者を除外した8140人（平均年齢54.2歳）を対象に横断研究を実施した。主たる結果は、吉野らのパーセンタイル曲線を用い、喪失歯数が30から40歳では28本以上、50歳では27本以上、60歳では26本以上、70歳では24本以上の予測達成者、それ以下を予測非達成者とした。曝露因子については①年齢、性別②生活習慣に関わる要因③口腔に関わる要因④全身疾患にかかわる要因に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査については事前に配布し自宅で記載してもらい、健診当日、健診補助者が確認した。本事業に関する説明会を事前に実施し、参加者全員に同意を得た。8020達成予測の有無を目的変数、達成に貢献あるいは阻害すると考えられる要因を説明変数として、多重ロジスティック回帰分析を行った。【結果】60歳未満の予測達成者が3109人（70%）で、そのうち73%が女性であった。60歳以上では1770人（48%）で、そのうち女性が60%であった。60歳未満で男女ともに有意であった項目は①「あなたの歯科医院とのかかわり方は次のどちらが近いですか？」について「歯の具合の悪いときにしか行かない」と比較し「定期的に（年に1回など）歯科医院に行っている」が男性でオッズ比1.7（95%CI:1.2-2.5）、女性でオッズ比1.4（95%CI:1.1-1.7）②「糸ようじ（フロス）の使用」について「使用しない」と比較し「使用する」が男性でオッズ比1.9（95%CI:1.1-3.5）、女性でオッズ比1.9（95%CI:1.5-2.5）③「野菜料理を食べますか？」について「週1回以下」と比較し「4-5回/週」が男性でオッズ比2.1（95%CI:1.1-4.0）、女性でオッズ比3.1（95%CI:1.1-9.2）、「毎日」が男性でオッズ比3.0（95%CI:1.6-5.7）、女性でオッズ比4.7（95%CI:1.6-13.4）であった。60歳以上で男女ともに有意であった項目は①「あなたの歯科医院とのかかわり方は次のどちらが近いですか？」について「歯の具合の悪いときにしか行かない」と比較し「定期的に歯科医院に行っている」は男性でオッズ比1.3（95%CI:1.1-1.8）、女性でオッズ比1.4（95%CI:1.1-2.0）②「あなたはたばこを吸いますか？」について「吸わない」と比較し「過去に吸っていた」が男性でオッズ比0.5（95%

CI:0.4-0.7)、女性でオッズ比0.6 (95%CI:0.4-0.9)、**「吸っている」**は、男性でオッズ比0.4 (95%CI:0.3-0.5)、女性でオッズ比0.5 (95%CI:0.3-0.9)であった。③**「脳卒中にかかったことがありますか？」**について**「該当なし」**と比較し**「該当あり」**が男性でオッズ比0.4 (95%CI:0.1-0.9)、女性でオッズ比0.3 (95%CI:0.1-0.8)であった。**【結論】**本研究の結果から、喫煙や定期的な歯科の受診がすべての年代に共通する8020達成に関わる因子であることが示唆された。本研究の結果、定期的な歯科受診、フロスなど補助的清掃用具の使用、食習慣、喫煙習慣などを考慮し、口腔保健活動を実施していく必要があると考えられた。